

去る者は 日々に 疎し

ことわざ：親しい人でも遠く離れると、次第に情が薄れること。落んだことについては、月日が経つにつれて忘れていくこと

イヌ（やネコ）をアークの玄関に連れてきて、こんなふう言う人たちがいます。「この子を引いていただけてますか」「どうしてですか」と私たちが尋ねると、彼らは「アパートに引っ越すので、ペットを飼えなくなるものですから」とか、何か別の言い訳をしつたりします。「いつ引っ越すのですか」という問いに、「あしたです」という答えが返ってくることもよくあります。

彼らは、かわいそうなペットを（時には一度に数匹のペットを）はるばるアークへ連れてきて、私たちがその動物を目の前にして哀れに思い、引きとってくれるものと期待します。これでは、まるで一種の脅しではありませんか。次のような極端なケースがありました。神奈川県からハスキー犬を連れてはるばるやって来た夫婦の例です。その犬は、明らかに長旅で疲れ、精神的にも参っているようでした。夫がアメリカへ転勤することに決まり、妻はアパートに引っ越すことになったので、というのが彼らの口実でした。「私たちにとって、この子はかけがえのない存在です。もとはといえば、保健所で殺される運命にあったこの子を私たちがもらい受けてきたのですが・・・かわいそうだけど、今となっては捨てるしかありません」と彼らは説明するのでした。

「ここはもう満杯で、スタッフも手いっぱい状態なんです」と私たちが言うと、夫婦の悲しげな表情が怒りの形相に変わりました。「でも、こちらは動物保護施設なんでしょう。どうして、私たちの犬の引きとりを断るのですか」何という不当な非難でしょう！たしかに、私たちは動物保護施設を運営し、現在300頭ものイヌやネコの世話をしています。しかし、私たちは今いる動物の1匹1匹に細心の注意を払い彼らの必要とする適切な世話をする責任があります。私たちの活動にも限度があります。限られたスペース、人手、時間、金銭的な事情の許す範囲内でしか活動できないのです。この限度を越えてしまうと、ここも、また、地獄のような場所になりさがってしまいます。アークは、税金で支援される公営施設ではありませんし、公的助成金のたぐいも一切受けていません。動物を愛し、彼らのために少しでも役立ちたいと支援してくれる一般の人々の善意と寄付だけに頼っているのです。

拒絶するのは、つらいことです。特に捨てられる動物が目前にいるときには。しかし、動物を苦しめるのは、このような自分勝手な飼い主なのです。彼らは、まず自分のことを考えます。自分の都合を優先し、ペットのことは後まわしにします。自分の子供だったらどうでしょう。我が子のことも同様に扱うのでしょうか。もちろん、人々の事情は変化するものです。特に現在のような不景気なときには。しかし、なんとかしようとする精一杯努力すれば、必ず道は開けるものです。例の夫婦にも幾つかの選択肢がありました。1つは、夫がアメリカへ赴任するときに飼犬を連れて行くというもの。（アメリカ合衆国へペットを空輸するのは簡単で、費用もそうかかりません）その2は、妻が犬を飼えるようなアパートを探すこと。（そのようなアパートはないと一般に思われがちで

すが、家賃の安い古いアパートや一軒家で、ペットが許される所も往々にしてあります。要は、手を尽くして探すことです。）このような場合、飼い主が本物の動物愛好家なら、自分の家族の幸福同様にペットの幸福をも考えるはずで。そのために、たとえ生活環境が悪くなったとしても、ペットを手放すことはないでしょう。

「ここへ来るために、わざわざレンタカーを借りてきたんですよ」ハスキー犬を連れた夫婦は何度もそう繰り返しました。まるで、そのために私たちが彼らの犬を引き受けなくてはならないとでもいうように。「こちらで引きとれないというのなら、捨てていくしかありません」別れ際に彼らは嫌味たっぷりにそう言い放ちました。その後、彼らが問題をどう解決したか、私たちは知りません。しかし、もし彼らが無情にも犬を置き去りにすることを選んだとすれば、ハスキー犬の行きつく先は、拾われたときと同様の所、すなわち保健所に舞い戻ることになるでしょう。それでも、飼い主夫婦にはどうでもよいこと、「去る者は日々に疎し」で、捨てた犬のことはすぐに忘れてしまうことでしょう。



People sometimes arrive on ARK's doorstep with a dog (or cat) saying,

"Can you take care of my pet?" When we ask, "Why?", they say they are moving into an apartment which doesn't allow pets, or some other excuse. "When are you moving?" "Tomorrow" is too often the answer. They have brought the poor animal (sometimes several animals) all the way to ARK expecting our hearts

will melt when we see it and take it in. This is a form of blackmail. One extreme example was a couple who had come all the way from Kanagawa with a Husky. The dog was obviously stressed and tired after the long journey. Their excuse was the husband was moving to a job in America and the wife into an apartment. They explained how much the dog meant to them and the fact that they had originally saved him from death at the hokensho, but despite all this, they wanted to get rid of him.



When we said we were already overflowing and our staff were overloaded with work, their sad expression turned to one of anger. "But you call yourselves an